
バレット学園日記！！

ミロンド2

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バレット学園日記！！

【Nコード】

N0420Z

【作者名】

ミロンド2

【あらすじ】

ミロンドの引き続きのミロンド2！！
色違いピカチュウと超人的なツタージャ達がおこす、四正学園での生活。

この学校ではスキルを育てるといったが…？

第4話 混合色(ミックスカラー) (前書き)

若干オリジナリティーが入ってますよ。

ラック「若干か？」

うん。…ところでバレットは？

ラック「あいつは…それよりこの作品1〜3話目がみたい人はバレット学園日記をどうぞ！」

あいつより宣伝かい！

ラック「ああ、そうさ。」

第4話 混合色(ミックスカラー)

俺は今ラックと散歩中だ。…というよりも連行に等しい。だって荷物持ちだもん。

ラック「あー買った買った」

バレット「それよりも早く帰ろうぜ。門限過ぎるぞ。」

俺達を通っている…というか住んでる学校は外出は自由だが6:30には帰らなくてはいけないのだ。

ラック「んーそうだね。そろそろ戻ろう…

あれ？」

バレット「ん？どうした？」

ラックの目線の向こうには不良とその不良に囲まれている…ヒコザル？

不良「おうおう、兄ちゃん少しでいいんだ

金くれ金！」

ヒコザル「も、持ってません…」

不良「じゃあ金持ってこいやー！」

バレット「どうする？ラックーラック」てめーらあ！弱い者いじめすんなやあ！」

あー…バカ…

不良1「おう？誰だ？お前？」

ラック「ツタージャ。」

不良2「見りゃわかるわ！んなこと！」

不良3「名前はなんだあ？」

ラック「ラックだよ。ちなみにあそこのピカチュウが僕の友達バレット。」

バカあああああつっつ！！

不良4「おうおう兄ちゃんもこっちこいや」

ああ…他人の振り作戦失敗…

バレット(おい!どうすんだよ!こいつら)

ラック(ん?ぶちのめす。)

バレット(できんのかあ?)

ラック(まあまあここは僕にまかせて!)

不良1「こそこそ何しとんじやあ!!!」

不良1、2、3、4は一気に襲いかかって来た。…全員炎タイプじやん!!!

バレット「ラック!危ない!!!」

土煙がたつた。土煙が晴れると…

バレット「……………!?!」

そこには無傷のラックと倒れた4人の不良

バレット「ラック!大丈夫!?!」

ラック「ん?ああ、大丈夫だよ。」

しかし…炎の攻撃は直撃だったはず……………

…!もしや!!!

ラック「うん、スキル使ってみた。」

バレット「具体的にどんなの?」

ラック「タイプを換えるスキル。…んーどんな名前にしようかな」

…」

なるほど。草タイプを水タイプにでもすれば効果は今ひとつだ。…

それよりも

バレット「大丈夫?」

ヒコザル「うん、大丈夫。ありがとう、えーと…」

バレット「バレットだよ。」

ループ「ありがとう、バレット。あ、僕は

ループ。ところで…」

バレット「ところで?」

ループ「もしかして四正学園の人?」

あ、四正学園って俺達がすん(ry

バレット「うん、どうし<ruby><rb>ラック「混合色

</rb><rp>(</rp><rt>ミックスカラー</rt
><rp>)</rp></ruby>で決まり!」

バレット「ああ、うん…えーとそれで?」

ループ「門限まであと10分(^o^)」

最後まで聞かず、無我夢中で走った。

学園に着いたのは門限5分後。めっちゃ怒られた…んだけど、ラッ

クはなぜか門限前に

帰ってたらしい。…おかしいだろっ!!

第4話 混合色（ミックスカラー）（後書き）

ラック「作者…いないなあ〜じゃおわりだね。」

ちよ？「いますけど待って！あ！あ—————プツッ

第5話 「不幸に叩き落とす悪魔と幸運に導く天使」(テスト)の恐怖(前書き)

ラック「題名凝ってるね。」

いやーそんな感じじゃん？

ラック「んー僕は天使の方かな？」

んまーそこは本文で！！

リース「俺も久しぶりだぜ！！」

ラック「俺と作者(仮)の所を！」

…仮？

第5話 「不幸に叩き落とす悪魔と幸運に導く天使」(テスト)の恐怖

ここは四正学園。ここの1-2では…

リース「あゝ3日後テストだ。点数悪い奴は補習だからな。」

バレット「ちよつと待て!!」

リース「なんだ?変色鼠。」

バレット「鼠言うな!それより3日後つて

なんでそんなギリギリに!!」

リース「あ?連絡ミスだ。じゃあな」

リースは教室を出て行く。…すると

ハクア「ねえ。一緒にテスト勉強しない?僕、成績悪いし…」

バレット「え?あ、ああいいぜ。」

実は言う俺は成績悪いんだか…

ハクア「よかった。ラックも呼んだから!さんポケ寄れば文殊の知

恵っていうし!」

…え?ラック?

バレット「ラック…呼んだの?」

ハクア「…?うん、そうだけど?」

やばい。生きて還れそうにない!

ラックは成績は良い方…というか完璧だ。

だから一度ラックと一緒に勉強したことあるんだが……

バレット「ごめん!やつぱ無理ーラック

「もう一度言ってごらん?」

バレット「だから行けな…うおっ!」

ラック「行けないなら逝かせてやる。今死ぬかここで死ぬか…どっ

ちがいい?」

強制連行¥(^o^)/

ラック「だから何故x=4、y=3なのに56になんだよ!」
ハクア「だってやり方!」

ラック「-2xなら-4x4!4x4すんな!」

俺達はラックの「暗闇に逃げ場なし」(きょうせいべんきょう)を
させられてる。

え?かつこ悪い?やつぱり?」

ラック「ごたごた言ってるねえーではよおやらんかい!」

バレット「Yes I do!」

俺は英語に取り掛かる。……えーと

“Did you studied English?”を訳せ?
えーと…didだから疑問系で過去系だろ…

Englishは英語…だから

“あなたは英語を勉強しましたか?”だな!

よし!楽勝!次いくぞー!

“I just finished reading this
book.”

はあああああつつつつ???

ラック「そんなのも訳せないのか?」

バレット「いや!無理です!」

ラック「はあ…“just”は“たった今”で

“finished”は“終わった”。だから

“私はたった今この本を読み終えました”」

おお…。でも…

バレット「これ…習ってないよな。」

ハクア「うん。そうだよな。」

ラック「おしゃべりはそこまでだ。さあはじめるぞ…」「これは地獄

絵図」(イツツ ヘル タイム)!!」

ギヤアアア……

結果はこうなった。

国語… 56点

数学… 48点

英語… 62点

社会… 65点

理科… 87点

ポケ学… 65点

順位… 98人中82位

ラックは相変わらずオールパーフェクト。

ハクアは大体70点位だったらしい。

そしてリースの最後の一言。

リース「80点以下補習な。今基準決めたけど。」

オワタ¥(＾o＾)ノ

第5話 「不幸に叩き落とす悪魔と幸運に導く天使」(テスト)の恐怖(後書き)

ラック「僕の“隠蔽計画”(パーフェクトミラージュプラン)に狂いは無い!……………」

よしっ!終わり!!!」

第6話 “楽しむも休むもあなた次第” (がくえんさい)の準備をしよう(前書

ラック「何かの説明みたいだな。」

作者「うーん、たしかに…」

ラック「あ！ちなみに四正学園の学園祭は

”敬遊祭”だよ。」

作者「最近、君ここ奪ってない？」

ラック「気のせいだよ」

作者「いやーでも。」

ラック「気のせいだ。」

作者「でもね。」

ラック「気？の？せ？い。」

作者「うーん。」

ラック「気のせいだっつってんだろ。」

作者「はい…。」

第6話 “楽しむも休むもあなた次第”（がくえんさい）の準備をしよう

これは、7月上旬のお話

リース「今度の日曜日に敬遊祭を行う。ちなみにどこのクラスも出店をやる。出店でなんかやりたいやついるか？」

学園祭かあ〜そんなにテンションあがら...

ラック & amp; バレット 除く全員「イヤアツツホウウウツツ！
」！

ああ...みんなハイテンション...

ラックはハイテンションじゃないけど...

リース「嬉しいのはわかったから！なんか案はないか!？」

焼きそば！たこ焼き！かき氷！フランクフルト!...とみんな口々にいう。

リース「あー焼きそば3人、たこ焼き5人

フランクフルト6人、かき氷7人.....」

リースは律儀に数えていく。

リース「よし、俺の気分で焼きそばだ」

あんたの気分かよっ！みんなつつこむ。

..... あーいやだ。このテンション

リース「おう？バレットとラック...ラック寝てんのか...みんなのテンションについていけないのかあ〜？」

俺は何も言わない。

リース「何も言わないって事は凶星かあ」

みんなが俺を笑う。

ラック「...因数分解...むにゃむにゃ...」

こいつはどんな夢をみてんのか...

ラック「テメーらうぜえんだよ。学園祭の時に限ってテンション上がりやがって。うるさいというよりうざい...むにゃむにゃ」

今こいつ自分の意見言わなかった？

ラック「というか焼きそば焼きそば簡単に言うけどあれソースの加減とか色々めんどいんだぞ？その分かき氷は冷やしてくれるからいいけど…むにやむにや。」

リース「じゃあかき氷でいいな。」

こいつ自分がやりたいものにかえやがった

ラック「これが僕の技さ。」

ふう〜…やっぱりな…

リース「じゃあお前ら二人パトロール係な

はい、決定。」

バレット「はあ！？おい、勝手にきめんなよ！！…今回初めてのセリフー！！」

リース「話聞いてないお前が悪い。…意味不明な事言ってるじゃねえよ！」

ラック「寝るんで静かにしてね。」

バレット/リース「……………はい。」

〜次の日〜

ナムル「ほら！早く何味がきめるぞ！」

ループ「レモン味とかいいなあ〜。」

ラック「ラック（運）次第の味。」

ナムル「怖っ！でも面白そう！採用！」

ラック「zzz…」

ナムル「…って寝言〜っ!？」

ループ「苺ミルク…」

ラック「飽和砂糖水をかけたり、メロンシロップかけたり、硝酸化ナトリウムかけたりしようよ。」

ナムル「硝酸化ナトリウムは却下あ！」

…俺？バレットだよ。……………つまんね。

T
o
b
e
c
o
n
t
i
n
e
d
...

第6話 “楽しむも休むもあなた次第” (がくえんさい)の準備をしよう (後書)

ラック「行事とかでテンション上がる奴に

殺意がわいた事があるよ。」

作者「わかる、わかる。合唱コンクールとかでリーダーじゃないのに仕切る奴ね。…っていない。」

第7話 “考える章” (にんげん)の世界へ！？ (前書き)

ラック「にゅ。なるほど。“人間は考える章”から考えたんだね。」
作者「うん。色々候補はあったんだけど」
ラック「いいんじゃない？でははじまり、はじまり〜」

第7話 “考える章” (にんげん)の世界へ!?

ここは四正学園。…の1・2は今は理科をしてるのだが…
デンリユウ「でだな、俺は作った訳よ。」

理科の担当ウイル先生は無駄話を続ける。

ウイル「“異空間移動装置” (パラレルワープ) を。いや〜きつかったぜ。」

バレット「先生、どんなやつなんすか？」

その〜“異空間移動装置” ってのは。」

ウイル「具体的には、こことは違う世界に行けるのさ。…んで誰か実験体3人いねーか？」

俺は考える。本当にそんな事が出来るのか

…でも本当だとすれば…

ラックノバレットノハクア「はい! (は〜い)

俺(僕)がいききたいですっ!!!」

ウイル「よーし、じゃあ明日行くからな。

準備しとけよ。」

ハクア「ところでどの世界にいくんですか？」

ウイル「秘密」

あー楽しみだな〜…

ウイル「ちなみにリリースも行くぞ。」

…やめよっかな

次の日…

バレット「行ってくるぞ!」

生徒1「死ぬなよWWW?」

バレット「不吉なこというなー!」

ラック「ねえ、早く行こうぜ」
ウイル「んじゃいくぞ！スイッチON！」
キウイ「……ン……ボン！！」
バレット「なんか変な音した！」
チュン！！

ラック「おーい。起きろ。」
バレット「……ん、ここは？」
ラック「どうやら人間界のようだよ。あとハクアとリースと別れちゃった。」
バレット「はあ！？人間界！？」
ラック「うん。さつき俺らと同じポケモンと人間が一緒にいたもん。」

……

バレット「お前……誰だ？」
ラック「え？どうしたの？」
バレット「てめー誰だ！！」カミナリ！！
雷が落ちる。

ラック「おやおや……ばれてしまいましたか……。どうしてわかったんです？」

バレット「一人称だ。ラックは一度も自分を“俺”と言った事はない。本人曰わく“偉そう”だからってよ。」

モン「チエツ、あと少しかったのに。俺はメタモンのモン。おーいラック、ばれちゃった。」

ラック「えー。早いよ。」
バレット「ラック！！どうゆうことだ！」

ラック「……この世界では気を抜くな。そうゆうことだよ。それよりハクアを探しに……」

あつ！ハクアとリース探しにいくぞ。」

こいつ完璧忘れてたな。

>ハクア視点<

はあゝ…よりによってなんで先生となんだか…。ラックとバレットとは別れちゃったし。先生は様子見てくるって行っちまったし。

ハクア「本当に不幸だな…先生は信用したらろくなことはおきないよ…」

リース「誰を信用したらろくなことがおきないって？」

ハクア「うおう！！」

ま、またこの人は！

ハクア「それより、どうでした？」

リース「…人間界だな。人間が沢山といる。…気持ち悪いくらいな。」

人間…本で読んだ事はあるけど、まさか人間がいる世界に来てしま
うとは…

ハクアはため息をつく。

バレットと違う所で一緒に

ハクアノバレット「はあゝ…」

T o b e c o n t i n u e d

第7話 “考える章” (にんげん)の世界へ!?(後書き)

ラック「人間界編はまだまだ続くぜ!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0420z/>

バレット学園日記！！

2011年12月3日23時54分発行